



最高裁秘書第2586号

平成29年6月6日

林弘法律事務所

弁護士 山中理司 様

情報公開・個人情報保護審査委員会

委員長 高橋 滋

理由説明書の写しについて（送付）

下記の諮問について，最高裁判所から当委員会に提出された理由説明書の写しを別添のとおり送付します。

記

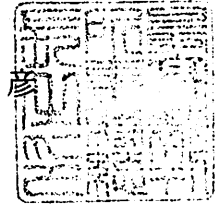
諮問番号 平成29年度（最情）諮問第24号

（担当）秘書課文書開示第一係 電話03-3264-8330（直通）

平成29年6月2日

情報公開・個人情報保護審査委員会 御中

最高裁判所事務総長 今 崎 幸 彦



### 理由説明書

下記1の諮問について、下記2のとおり理由を説明します。

#### 記

#### 1 諮問日等

##### (1) 諮問日

6月2日

##### (2) 諮問の要旨

苦情申出人は、最高裁判所がした不開示の判断に対し、「本件対象文書が本当に存在しないかどうか不明であるから、この点を改めて確かめてもらうために苦情の申出をする。」と主張しているが、当該判断は相当であると考える。

#### 2 理由

##### (1) 開示申出の内容

裁判官の場合、在職中の求職がどのように規制されているかが分かる文書（最新版）

##### (2) 原判断機関としての最高裁判所の判断内容

最高裁判所は、(1)の開示の申出に対し、5月19日付けで、当該文書は作成又は取得していないとして、不開示の判断（以下「原判断」という。）を行った。

##### (3) 最高裁判所の考え方及びその理由

ア 裁判官については、国家公務員法の在職中の求職の規制（同法106条の

3) は適用されないところ、最高裁判所において、裁判官の在職中の求職活動が「どのように規制されているかが分かる文書」は作成又は取得していない。

イ よって、本件申出に係る文書を不開示とした原判断は相当である。